

「第2期 京都文化芸術都市創生計画」(案)の市民意見募集の結果について

○御意見者数:227名 1団体, 御意見数:341件

A 創生計画(案)に反映するもの(8件)

B 創生計画(案)に記載済又は趣旨に含まれ, 賛同いただいているもの(283件)

C 今後取組の推進に際して参考とするもの(50件)

No.	御意見	対応
1 計画の背景		
1	「文化芸術」を京都市としてどうとらえているかの記載があった方がわかりやすい。	B
2 基本方針について		
2	「10年後においても, 京都が, 永い歴史の中で培われた成熟した都市文化を基盤に新しい文化を創造し続けるまち」という趣旨は, 非常に重要だと感じている。	B
3	基本方針は素晴らしいと思うので, その方針に応じた取組の実効性が重要になる。	B
4	基本方針である「成熟した都市文化を基盤に新しい文化を創造し続けるまち」は市民にとってどのようなメリットがあるのかを分かりやすく示してほしい。	C
5	伝統を受け継ぎつつ, 新たな革新や創造を続けるという点がとてもよい。	B
6	計画の構成図の「新たな価値」や「花開く」の矢印が意味するところがよく分からなかったので, 見せ方をもう少し工夫してはどうか。	C
3 4つの方向性について		
方向性1 暮らしの文化や芸術に対する豊かな感受性をもった人々を育む		
【暮らしの中に根付いた文化を楽しみ, 継承する】		
7	食の文化を取り入れてほしい。	B
8	父母や祖父母から伝えてもらい, 普段当たり前のように接している和の文化, 衣食住の文化など(郷土芸能, お祭り, お茶, 畳, ふすま等)を再認識し, その歴史やバックグラウンドを多くの人に知ってもらう取組をしてはどうか。	B
9	京都市民に対する施策として, 「地域に根差した暮らしの文化」の醸成には特に力を入れてほしい。	B
10	生活の中に溶け込んでいる行動や習慣についても, 世界に誇る継承すべき大切な文化である。日本人にとっては当たり前のこれらの文化・風習を, 留学生や外国籍市民の目を通して考えることで, 改めてその価値に気付くことができるのではないか。	B
11	生活に根付いている古からの文化を子ども達へ, 未来へ継承して行ってほしい。	B
12	学区単位や町単位で引き継がれている地藏盆や運動会などのイベントは, 地域のつながりを深めるために必要である。	B
13	暮らしの中にある文化を, 守っていくことが重要。	B
14	京都が培ってきた文化芸術は素晴らしいものであり, しっかりと継承してほしい。	B
15	京都には, 年中行事や地域での祭りなど, 文化が暮らしの中にたくさん息づいている。これらを掘り起こして, 光を当て受け継いでいくことが必要だ。	B

16	子どもや暮らしなど、市民に身近な文化の充実に力を入れてほしい。	B
17	計画案に賛成であり、文化芸術は、創造性に富んだ高貴な存在でもあるのと同時に、市民の生活に根差したのも大変重要で、そのような視点も盛り込まれていることが、文化芸術の維持継承に繋がる。	B
18	暮らしの中に文化が根づくためには、市民が京都の文化を改めて実感して、生活の中に文化的なものが感じられることを取り入れようという気持ちが高まることが大切だ。	B
19	私の住んでいる地域では地域の方々が協力し、非常に大きな地蔵盆が開催されている。このような素晴らしい地域に根差した暮らしの文化を引き継いでほしい。	B
20	京都で生まれ、育つ子どもが、門掃きやおぼんざいなど、「衣」「食」「住」それぞれにある、京都の暮らしの文化に接し、素養として身に着け、成長していくことを願う。	B
21	京都という土地で息づく文化や芸術を大事にしてほしい。	B
22	茶道、華道のような文化の保護・振興も大事だが、地域住民の伝統行事のように民俗学的・宗教学的な文化の保護・継承に努めてほしい。	B
23	方向性1「暮らしの文化や芸術に対する豊かな感受性を持った人々を育む」にあるように、文化芸術を身近に感じられるまちに力を入れて取り組んでもらいたい。	B
24	様々な年齢、立場の市民の方々を巻き込んで文化や芸術を推進するためには、文化芸術に触れる機会が様々なテーマのもと身近な場所にどれだけあるかが大切である。	B
25	京都に日本人が住み京都という街を形成していかないと、京都の地域性がなくなるとともに、京都で根付いている暮らしの芸術文化が衰退していくのではないだろうか。	C
26	京都の文化や芸術全般において、日本人があまりにも知らなさすぎることが、今現在の最も大きな課題であるように感じる。日本人の誰もが知る、京都の文化芸術を作り上げるべきだ。	B
27	次代を担う子どもたちが暮らしの中に息づく文化を意識し、楽しく学ぶ機会を創出することが重要だ。	B
28	伝統産業品の暮らしの中での活用を進めてほしい。	B
29	学校だけでなく、地域や家庭でも文化に触れる機会が増えたらよい。	B
30	一般的な家庭にも広く伝統産業を広めることが大事だ。伝統産業として作られたものを使うことが日常という状況になるまで浸透させるべきだ。	B
31	暮らしの中で文化芸術に接する機会を増やすことが、生活の中からアートを応援していくことにつながる。暮らしの中における文化芸術の大切さに改めて気付く必要がある。	B
32	150万人の市民が生活するまちとして、市民が日常生活の中で京都の文化や芸術に触れ続け、その国内外で評価されている文化的な価値を再認識できる機会が大事だ。	B
33	オリンピックを契機に海外へ伝統文化を発信する以前に、京都に住む人たちがまずは、生活の中で伝統を楽しむ姿を作っていくことが必要であり、大きなフェスティバルを開催した後も、それは継続して大切にしてほしい。	B
34	日々の暮らしの中に息づく文化を再認識・継承する取組が重要だ。暮らしの中で伝統文化に触れる経験が、京都ならではの新たな価値の創造につながる。	B
35	京都の暮らしの中に根付いている文化、京都特有の衣食住に関わる文化体験を繰り返し日常で体験できる機会を作してほしい。	B
36	市民が京都の生活文化や文化財などについて学び、観光ガイドとして案内できるための講座などを開設し、学ぶ機会を増やすとよいのではないか。	B
37	暮らしの中で、審美眼を持ちながら、文化芸術を生活に取り入れることができる「目利き力」を育て、文化芸術の受け手のレベルを上げていくことが必要だ。	B
38	京都市民が京都市の持つ文化芸術の魅力を十分に理解していないのではないか。新計画が市民の心の豊かさ等に繋がるものであるということを分かりやすく伝えてほしい。	B
39	「学校給食における「和食」の充実に向けた取組の推進と情報発信」に賛同する。	B
40	「京都」という地域性を保ち、活かすにあたって、観光客の飽和状態は無視できない。観光客の増加により、京都の街は外国人に買収され、生きた京都が消滅してしまうのではないかと危惧している。	C
41	京都は着物で街に出やすい。着物を売るお店が服を売るお店と同じくらい入りやすくなったり増えたりしてほしい。	C
【子どもが文化芸術に触れる機会を創出し、感性を磨く】		

42	子どものうちから質の高い文化に触れることが重要であり、子どもへの教育の機会を地道に提供し続けてもらいたい。	B
43	子どもの頃から文化芸術に触れる機会を多く作っていくことが大切である。	B
44	京都市内には価値ある文化的建造物や文化に精通した人物などが多く存在する。小・中学校の教科に組み込み、授業の一環で文化に触れることで文化への意識や地元・郷土愛が育まれていく。	B
45	小学校の頃から文化に触れる機会がもっとあればよい。お茶、生け花、能といった高尚な文化でなくても、子どもの興味を引くものでよい。	B
46	「ようこそアーティスト 文化芸術とくべつ授業」が素晴らしい取組だと思う。もっと広く、全ての小学校に芸術家を派遣できるような仕組みを作ってほしい。	B
47	伝統的な文化芸術から現代芸術までの幅広い芸術家を小中学校へ派遣する「ようこそアーティストとくべつ授業」の実施は興味深い。	B
48	華道、茶道、香道の先生を小学校へ派遣するのはよい取組だ。	B
49	「ようこそアーティスト文化芸術とくべつ事業」の実施の取組に賛同する。	B
50	子どものころから文化芸術に親しむ機会を作ってもらい、ぜひ、次世代に継承をしてほしい。	B
51	学校で京都の茶道や華道、邦楽、能楽などの授業を一度でも体験する機会が増えることで、その子どもたちの感性が磨かれて、将来、芸術家になったり、鑑賞する大人になったり、ということに繋がるのではないかなと思う。	B
52	ようこそアーティスト文化芸術とくべつ授業では、伝統系の授業をメニューとして取り入れることは大事なことであるが、一方で、美術、音楽、現代アート、ダンスなど、現代的な文化芸術をはじめ多様な授業のメニューがあることも大切である。	B
53	市民の文化芸術活動を振興する上では、トップレベルの芸術家と触れ合う機会、指導を受ける機会が多く設けられることが効果的だ。	B
54	幼いころから和の文化に触れ合える環境を整え、子どもたちの感性を育てることが大切だ。京都から全国をリードする取組をしてほしい。	B
55	子どもたちが自分で伝統的な文化を理解し、他の人に伝えることができるまでのレベルに達するには、一度触れただけでは難しいので、定期的または複数回、子どもたちに気軽に鑑賞できる機会を設けることが大切である。	B
56	京都に住む子どもたちが、普段の生活の中で京都の伝統や文化に触れたり学ぶ機会をもっと増やして、将来、文化産業に関わりたい、伝えたいと思ってもらいたい。	B
57	小中学生や若者が伝統行事や伝統文化、伝統産業にも触れられる機会を増やしてほしい。優れた技・芸を継承できるサポート制度も必要。市民が親しみやすい事業の実施を検討してほしい。	B
58	「子ども」に高校生・大学生は含まれるのかが分かりにくい。京都は大学が多く、学生にも京都の奥深い日本文化に触れてもらうことも文化振興につながる。	B
59	子どもだけで観に行ける(観に行きやすい)、体験できる(体験しやすい)機会がたくさんあればよい。	B
60	こどもが喜んで参加するような事業を増やしてほしい。	B
【市民が文化芸術に親しむ】		
61	「文化芸術の取組」が、一部のファンや関係者だけのものにとどまらないように意識して取組を進めるべきである。気軽な場所で文化芸術に触れることのできる機会を作るなど、「文化芸術」の敷居を低くするため、何か工夫が必要ではないか。	B
62	方向性1に力を入れてもらい、文化や芸術は行政や文化人だけが専門的に関わっている特別なものではなく、市民ひとりひとりが当たり前で享受し、その人なりの方法で継承・発展させていくものになればよい。	B
63	文化芸術に縁がなく、ハードルが高く感じてしまう。文化芸術を身近に感じる機会がほしい。	B
64	市民に文化を根付かせる取組が特に重要である。	B
65	文化庁の移転を契機に、市民がもっと京都の文化に触れる機会が増えるよう、気軽に参加できるイベントが増えればよい。	B
66	家族で気軽に参加できるような、「ほんもの」の魅力が伝わる場所での公演に触れる機会の創出にも力を入れてほしい。	B

67	文化芸術に触れるイベントなどは、アクセスがしやすい場所であったり、何かのついでに行くという形が参加しやすいのではないかな。	B
68	一般の市民にも、京都の文化芸術に関わる機会を増やしてもらいたい。	B
69	文化や芸術の価値や楽しさを自分の五感で感じる機会を増やすことが、文化や芸術に関わる市民を増やすことにつながると思う。	B
70	なんとなく好きらしいのライト層をどうとりこむかが重要に思う。数の多いライト層を工芸、産業、美術に取り込む事ができれば、より深く興味をもつ人が現れ活性化が進む。	B
71	「社会包摂」の取組が、少し弱い。	C
72	対象者への一方通行での芸術家の派遣による取組ではなく、対象者を理解し、「共生社会の実現」を目指したもの、つまり対象者が健常者と共に生きることを目指す取組が本来の社会包摂になる。ようこそアーティストの社会困難者版ではなく、ようこそアーティストの取組の中に「共生社会の実現」を目指す取組とすれば、この事業についての目的と効果はある。「共生社会の実現」のために社会的困難者だけを対象にした事業とはしないほうがよい。	B
73	文化芸術に親しむ機会が、文化芸術から遠いと思われる現場で増えることで、介護や教育、子育ての質が向上したり、社会課題の解決への糸口となったりすることが期待できる。	B
74	多くの体験教室等が個別で小さく静かにやっているイメージがあるため、定期的にそれらと同じ場所で体験することができるイベントを開催したらよい。	B
75	市民狂言などの取組を様々なジャンルに広げて、誰もが簡単に触れられるような、また気軽に参加してみようと思える取組をどんどん進めてほしい。	B
76	伝統芸能や文化を、昔から伝わるよいものだとばかりせず、日本のさまざまな文化や芸能の中に、同じく伝統芸能もあり、そして同じくおもしろいものだというように、古典芸能を理解し楽しむことが大事だ。	B
77	右京区役所で、嵯峨大念佛狂言を実施し誰でも無料で観覧することができた。こういう取組の積み重ねが大切だ。	B
78	文化芸術都市として充実化を図るため、英語落語の普及が不可欠。東部文化会館、醍醐交流会館で英語落語の寄席を開催し、また、醍醐総合庁舎のだいがおとな塾でも英語落語をテーマとして協議してほしい。	C
79	企業、社員への文化芸術の理解促進をするために、コンサートや歌舞伎公演等を鑑賞すると、会社の研修費として支援してもらえなどの取組をしてはどうか。	C
80	将棋と囲碁、オセロゲームも文化の範囲に含まれる。高齢者が土曜保育をしている保育園で、将棋、囲碁、オセロゲームを園児に教える機会を設け、体制整備するべきだ。	C
【市民の文化芸術活動を応援する】		
81	暮らしの文化も含め、市民にも親しみやすい幅広い文化の概念を提示し、市民の文化芸術活動の促進を第1の方向性に掲げている点は素晴らしい。	B
82	アマチュアの文化芸術活動を支援し育てることにより、トップレベルの芸術家が食べていける環境ができるので、市民の文化芸術活動を振興する施策に力を入れてほしい。	B
83	人口の面で層が厚いミドル・シニア層も大切にして、地域の文化芸術活動の中核的担い手に育成していくことが効果的だ。	B
84	京都の文化力を高めていくために、京都の芸術に関わる人材を有機的につなげるネットワークが充実すればよい。	B
85	文化ボランティアでも専門的な知識資格を持つものには、何らかの対価が与えられるのが望ましいのではないかな。	C
86	京都は大学の多いまちであるので、ボランティアとして参加してもらうなど、若い人たちが文化芸術の活動にもっと参加できるように、また、学生に対する情報の発信方法も工夫すべきである。	B
87	ふるさと納税に、「京都の文化に貢献する」というメニューを作ってはどうか。	B
88	国内外にパトロンを求めるような仕掛けが必要。	B
89	企業の協賛金は、1社独占など、メリットが明確なほうがよいのではないかな。	C
90	方向性4の「京都の文化芸術を伝える・魅せる」の中に記載されている「施策番号131 後援等による文化事業の支援」は市民の文化芸術活動を支援するものであるので、方向性1の「市民の文化芸術活動を応援する」の見出しの中に分類した方が、より分かりやすい。	A
【文化的景観の保護と継承等】		

91	京都には、文化的景観が数多くある。それらを守り、活用することが、これからの京都を支える。	B
92	暮らしの文化を継承していくためには、それを支える町家、地域コミュニティを継承していくことが大切だ。	B
93	「光」「音」「香り」などで彩られた五感で感じる京都の景観の継承と活用、大事なことだ。道を歩いているときに感じられる京都という土地、まちの雰囲気、京都の文化を育んでいるという視点がおもしろい。	B
94	特に「光」、「音」、「香」などで彩られた五感で感じる京都の景観の継承と活用という項目が印象に残った。	B
95	町家は京都の暮らし文化を象徴する建物であり、景観面でも重要な要素になっている。町家の保存が京都の文化を継承することに繋がると思う。	B
方向性2 多様な文化が根付く暮らしの中から、最高水準の文化芸術活動を花開かせる		
【伝統的な文化芸術を受け継ぐ】		
96	伝統芸能や文化そのものを紹介するのではなく、さまざまな視点から考えて「魅力的だ」と感じるように真剣に考え、プロデュースをするなど、工夫をしてやっていくべきだ。	B
97	伝統的な文化芸術の継承や保存に力点を置くのではなく、千年後の京都に息づく文化の創造に向けて取り組んでほしい。	B
98	伝統産業や伝統建築の職人も、施策の対象に入れるべきだ。	B
99	伝統文化をもっと大事にしてほしい。	B
100	文化芸術に力を入れることは、京都市として進めていくべき方向性だと思う。伝統文化の継承などの京都市ならではの部分にもっと注力した方がよい。	B
101	本来の京都の文化芸術を盛り上げていく取組についても、着実に進めていってほしい。	B
102	伝統芸能をどうしたいのか、しっかりした考えをまとめてほしい。京都市をどうしたいのかという明確な打ち出し方をしてほしい。	B
103	伝統芸能文化センターを応援している。	B
104	企業人に、文化芸術に理解の心を育むための研修が必要と思う。	B
105	文化芸術を享受する環境を整え、人間性を育むということは、企業経営の視点として非常に大切である。	B
106	重要施策の一つ「51 社会人を対象とした講座実施」は、通訳ガイドに限定することなく、幅広く実施してほしい。	B
107	日本文化を外国人に伝え、京都観光に貢献できるよう、ツアーガイドの活躍する場を増やしてほしい。	B
108	海外の人的資源も将来的には活用するべきではないか。外国人が京都で創作し、学び、伝統を教えられるような仕組みづくりが必要ではないか。	B
109	外国人が京都で創作し、伝統を教えてもらうような事業が必要だ。	B
110	伝統芸能も今では外国人の方が興味を持っているように見える。日本人に、伝統芸能の内容や背景なども知ってもらうことが大事だ。知ることは、次世代への継承、保存につながる。	B
111	邦楽を学べる大学は、東京藝術大学しかない。京都にも邦楽が学べる場所が必要である。浄瑠璃も京都が発祥であるにもかかわらず、公演や活動の場が少ない。	B
112	日本の武道精神は伝統的な日本の文化芸術においても底流の一角を成す世界に誇る独自の精神文化と言えるものであり、伝統芸能などとは一線を画すものである。その精神文化を知識だけでなく凛とした風気の中で各武道のほんものの演武の基本の型を通して市民や国内外の観光客にも実感してもらおう場がぜひ必要ではないか。その意味においても平安神宮に隣接した利点を持つ京都市武道センターや小中校等での演武のデモンストレーションを集約的に見学体感できるプログラムや機会を設けるべきではないか。	C
113	他の伝統文化や伝統産業と同様、京都市として、武道の振興について真剣に考えてほしい。	C
114	「歌舞伎発祥の地・京都」と言われるが、実際は歌舞伎の上演は活発ではないように思う。もっと歌舞伎公演をやってはどうか。	C

【新たな文化芸術を創り出す】		
115	京都は伝統から新たなものを生み出す力を持っていることが利点であり、その強みが活かせるような取組を望む。	B
116	単に伝統を守るだけでなく、未来に繋がる革新を促す取組を期待する。	B
117	伝統的な文化芸術都市のイメージに新たな魅力が重ねられるような、前衛的な取組が盛んに行われていけば、京都の新たな魅力がさらに重なっていくのではないかと思う。先駆的、挑戦的な芸術活動が継続して行える環境づくりに努めてほしい。	B
118	京都は現代芸術分野ではまだまだこれからであり、文化芸術交流を進め、現代美術についても、もっと活発にしてほしい。	B
119	文化をあらゆる分野で活用するためには、ソーシャル・デザインの手法を用いるべきだ。	B
120	企業はアーティストの活用を多角的に考えるべき。アーティストの能力を活用しながら、経営を考えていく必要がある。	B
121	京都国際舞台芸術祭は、成り立ちも含めて、非常によい事業である。今後、東京オリ・パラに向けた大きな主要な文化事業として開催していくことも考えられるので、文化プログラムを進めるうえでの重要な位置付けの事業ではないか。	A
122	最重要施策として現代的な文化については特別には記載されていない。国際舞台芸術祭や国際写真祭は、重要施策に位置付けてほしい。	A
123	京都国際舞台芸術祭を応援している。	A
【文化芸術の担い手を育成・支援する】		
124	成熟した自治体が文化や芸術に補助金を出したり、担い手を育成したりすることは非常によいことだ。	B
125	芸術家を支える役割を担う専門的な人材の育成にも力を入れてほしい。	B
126	私の工場を若手の芸術家に貸している。大学卒業後間もない若手の芸術家への支援を是非検討してほしい。	B
127	芸術家としてがんばっている人たちが活動しやすいよう、また、私たち市民が税金をかけてもよいと思えるような、支援をできればよい。	B
128	京都の文化力が問われることを想定すると、現在進行形の若い才能や活動をどれだけ育て、根付かすかが問われることとなるので、さらに発展させる必要がある。	B
129	京都芸術センターの活動がとても評価できる。作品展示の内容がとても良く、毎回楽しみだ。	B
130	一流企業と連携して、芸術家の経済的地位の向上に取り組んでほしい。	B
131	なかなか収入の安定しない芸術家の支援や発表の機会の創出にしっかり取り組んでほしい。	B
132	芸術家が、自分たちの芸術活動をそれぞれで自主的にやっていけて、暮らしていけるような環境を作る支援を、行政には期待したい。	B
133	芸術家が、収益につながる取組をすること、また、地域住民や小学校・中学校に対して芸術活動を披露することへの行政からの補助金支援などで、京都の文化芸術の普及や文化の意識の向上となるのではないか。	B
134	文化芸術に携わる人が気軽に稽古や作業ができる場、自分の活動を発表できる場が官民間問わずもっとできるとよい。	B
135	若手芸術家達が活動を継続していける居住・制作環境の整備に加え、文化庁移転を契機として、市民の文化への意識が高まり、芸術家の発表の場(=仕事)が増え、彼等への需要が一層増えてほしい。	B
136	京都の芸大生は、卒業後は活動の場を求めて東京等へ行ってしまう。京都市の遊休施設を活用して、若手アーティストに活動してもらおう環境づくり等、対応策を考えてはどうか。	B
137	アーティストが町家に住み、芸術活動をする事例が増えることを望む。	B
138	アーティストに定住してもらうような施策も必要。	B

139	HAPSは、「あらゆる政策を融合」させるうえで、モデルとなる事業である。今後は、東山以外のエリアでも精力的に展開してほしい。	B
140	HAPSの活動がとても評価でき、今の京都市にとって、とても重要な活動だ。	B
141	町家の空き家等を活用して芸術家の方を住ませる等の施策の展開が望ましい。	B
142	作家の作品をレンタルするシステム、作品を広く人に評価してもらう場づくりなど、若手芸術家を知っていたく場づくりを望む。	B
143	文化観光といった上澄みではなく、その基盤となる人、都市空間、都市環境への投資が必要。	B
144	目指すものが分かりづらい。人にお金をかけた方がよいのに、イベントやものばかりにお金をかけているように思う。ものや施設は数多くあるが、それを使いこなす人材が不足している。コーディネートしていく需要は高まるので、それを重要項目として掲げ、進めてほしい。	B
145	文化芸術活動と他の領域と繋げる中間支援機能(コーディネート)の強化と、アーティストに歩み寄れる人材づくりが必要ではないか。	B
146	文化芸術に投資をする財団を作ってはどうか。	B
147	小規模の演劇団体、映画製作団体がアクセスしやすい助成金制度を作してほしい。	C
【地域のまちづくり活動と連携する】		
148	地域と連携した文化によるまちづくりの取組を取り入れてほしい。	B
149	京都駅南部には、京都市立芸術大学が移転する他、京都市地域多文化交流ネットワークセンターがあり、文化を基盤に背景の異なる様々な人の共生が進むことを望む。	B
150	「京都駅周辺エリアをはじめ、新たな文化ゾーンの創出等による地域の特色づくりの推進」について、ここに来れば、京都市内の各地域の文化が感じられる場所になるような取組を検討してほしい。	B
151	文化ゾーンのところに、もう少し芸大のことを書いた方がよい。	B
152	文化芸術を観光客を呼ぶ手段のみにならないよう、まちづくり、住宅政策等とも融合し、伝統文化をしっかりと足元から守り、支える取組が必要である。そういう意味では、京都駅周辺(芸大、東南部)の取組などはよい事例だ。	B
153	京都駅の周辺エリアに新たな文化ゾーンが創出できれば都市格の更なる向上につながる。取り組むに当たっては伝統にこだわりすぎず、現代美術やマンガ・アニメなど、幅広い芸術が花開くようにしてほしい。	B
154	京都駅周辺という大変アクセスがよく利便性の高いエリアに文化ゾーンができることに大きな期待を寄せている。	B
155	京都市立芸術大学が移転し、京都駅周辺エリアに新たな文化ゾーンが創出され、文化芸術を用いた特色あるまちづくりがされることで、若手の芸術家たちをはじめとした若者の定住につながることを期待する。もとの地域の文化と融合して新たな魅力につなげてほしい。	B
156	生活文化の担い手である商店街をもっと活用してほしい。	C
方向性3 京都の文化芸術資源を活用し、文化を基軸にあらゆる政策分野との融合により、新たな価値を創造する		
【観光・産業・学術・教育・福祉・まちづくり等と文化芸術の融合】		
157	観光や産業などの様々な関連分野への波及や融合を図って、文化による新たな価値を創出し、京都そして日本全体を元気にしていくことは大変重要だ。	B
158	文化を経済効果も見込めるものとして捉え、あらゆる分野とクロスさせて相乗効果を図ることが、京都市政に大きくプラスになる。	B
159	方向性3の「文化を基軸にあらゆる政策分野との融合」というのが、今後の京都の価値を高めていくうえで非常に重要なファクターだと思う。	B
160	文化庁の移転を契機に文化をあらゆる分野で活用するためにソーシャルデザインは相性がよく、文化庁の予算を用いることも念頭に置くべきだ。	B
161	文化、芸術、デザイン、美的感覚は、商業ベースでも大切な要素であり、欠けると経済活動もうまくいかない。文化芸術と商業をうまくつなげられるとよい。	B

162	文化芸術を基軸に、あらゆる政策分野を融合した施策・事業を推進していくことを期待する。	B
163	文化芸術を活用して産業やまちづくりに結び付けるという方向を強く打ち出してほしい。	B
164	文化芸術資源をしっかりと保存継承していくためには、分野横断的な取組によりイノベーションを促すこと等を通じて経済効果を高める必要があるのはそのとおりだと思う。理念倒れにならず具体化できるようしっかりと取り組んでほしい。	B
165	オリンピック開催を契機に、これまでなかったような文化に携わる新たな職業が生み出されることを期待したい。	C
166	文化芸術を生業にする人々がきちんと人間らしい生活を送れるように、文化芸術と社会とが無理なく繋がることができればよい。	B
167	芸術家の地位の向上につながる取組の実施を期待する。	B
168	芸術家が芸術活動で生計を立てることができるよう、まずは芸大生や若手芸術家の作品を企業がコレクションできるような仕組みができるとよい。	B
169	芸大生の絵画等が企業に売れるようなしくみづくりができないか。	B
170	企業に文化への投資、特に現代美術、前衛芸術への投資を促すためには、マーケットを作ることが必要である。	B
171	方向性3の中で、暮らしの文化をいかした観光振興や、文化を生かした産業について、売る商品に京都ブランド、京都の文化芸術の視点を活用していけないか。	B
172	文化体験と和食、京料理をもっとマッチングさせることが出来れば、観光旅行の記憶にしっかりと残る。京文化を下支えするアイテムとして、もっと「食」をクローズアップしたらどうか。	B
173	日本の伝統文化の発展継承を支え、大きく寄与している場である料亭を、多くの外国人をはじめとした観光客に積極的に活用してもらうための施策を検討し、京都から日本の伝統文化を活性化させ、文化の力による地方創生につなげてほしい。	B
174	「文化芸術の継承・創造」と「観光振興」を融合し如何に「地域経済の活性化」に結び付けるのか、わかりやすく説明してほしい。	B
175	観光客に社寺・庭園・祭などの来歴や起源、本来持つ意義を前もって説明し、ふさわしい見方をしてもらえよう努力する姿勢が必要だ。その手段としてスマホやタブレット端末用のアプリの開発も有効だ。	B
176	文化財の活用という点においては昨今ではライトアップなどありきたりなものばかりだと思うので、新たな文化財の活用方法を見出してほしい。	B
177	二条城の駐車場について、市はしっかりと取り組んでいる。	B
178	見る側に「見てもらう」ためには、「芸能」である以上、新規開拓のための様々な歩み寄りが必要なのではないか。インターネットを利用したこれまでにない層へのアプローチや、企業IPの活用などでコンテンツ産業とのコラボレーションなど、若者に向けた「攻めた」方策が必要だ。	B
179	マンガミュージアムのように、子どもの興味をひきやすい視点から文化芸術に関するアプローチをしている点が素晴らしい。	B
180	京都市の伝統産業についても文化として捉え、商品としてだけでなく、文化的なものとして発信する取組を推進するような内容を盛り込んでほしい。	B
181	京都の文化の発信と併せて、京都の伝統産業のPRを、できれば具体的に販路が拡大できる、実収入に繋がる取組として更に充実していければありがたい。	B
182	伝統工芸と先端技術の融合となる製品を作るなど、企業が文化芸術を取り入れて製品化に活かすことをもっと進めるべきだ。	B
183	文化芸術との融合により新たな伝統産業品を創り出していくこと、伝統産業品の掘り起しも大切である。	B
184	京都は工芸が盛んで、よき創り手、クオリティの高い工芸品が集積するまちである。工芸に力を入れて、都市の特色を出してほしい。	B
185	市民若しくは民間が主体となって、素晴らしい文化芸術を世界に発信していくべきであり、特に、伝統産業に関する文化が閉鎖的であるため、若手を中心に新しい発想を育める具体的なアイデアを盛り込んでほしい。	B
186	これまで、文化の発展とともに科学技術が進展してきたように、新たな文化の創造が科学技術の革新を誘発し、地域経済の活性化につながるよう取り組んでもらいたい。	B
187	イノベーションの創出は、ネットワークが重要で、そこから派生すべきものである。	B

188	AIなどの技術革新とどう共存するのか、前向きな検討が必要になる。	B
189	京都の伝統産業の日・きものパスポートについてもっと若い人への認知度を増やしたい。大学は全国各地から京都に人が集まっているので、大学生にこそ京都の着物の取組を知ってほしい。	B
190	若者はファッションやインテリアなどに興味を持つ人が多いので伝統工芸とコラボして伝統工芸の良さや近代のおしゃれとされていることなどどううまく融合することができると京都の文化がより活性化される。	B
191	芸術系大学以外でも、京都の奥深い日本文化に触れる機会を与えてほしい。大学の授業の一環としてなら喜ばしいが、学生が文化に触れるきっかけづくりを、学生の成長を支援する一環として大学と連携して実施してもよいのではないかな。	B
192	大学にもっと文化振興に協力してもらってもよい。学生の教育の一つとして、文化的な実地での講義を取り入れてもらったり、文化振興につながる学術・技術的な研究や提言、文化振興につながる地域貢献活動など、もっと実施してもらおうように大学に働きかけ、協力してもらおうべきだ。	B
193	各大学の支援も重要であり、各大学との連携は更なる工夫と議論が必要である。	B
194	「芸・産連携」(芸術、学術、産業の連携)をもっと進めていく必要がある。文化芸術体験プロジェクトを企業から提案し、そこに、市民、社員が参加していくことで、文化的な理解を深めることができるのではないかな。	B
195	文化産業に携わる工芸職人等の映像を蓄積しアーカイブ化し、文化産業とあらゆる分野との融合マッチングの機会を創出すべき。	B
196	文化芸術の持つ創造性が産業振興につながった成功事例を示すべき。	C
197	1000年の都で育まれた宮廷文化を現代の市民に広く知ってほしい。宮中の装束・調度品の展示会の開催や、皇室とゆかりのある歴史文化遺産を会場としたイベントを望む。	C
198	外国人留学生が、京都の文化産業への関心を強めている。若者留学生が日本文化を育み、文化を基軸としたローカルビジネスの人材として活躍できる仕組みを視野に入れてはどうか。	C
199	若手芸術家の作品が流通しやすいよう、税制の優遇措置ができないかな。	C
200	企業が文化に投資することを促進するためには、税の優遇など税制改革をするなど、文化に投資をした企業が評価される仕組みができたらい。	C
201	京都検定に合格した人の多い企業に受注する等、企業の文化への貢献度に優遇制のようなものを考えてはどうか。	C
202	企業の利益の1%を文化に投資する取組をしたり、メセナ事業をする等、企業の文化への理解・啓発が必要。	C
203	文化度の高い企業を認定する「C(カルチャー)マーク」を作ってはどうか。	C
【文化財を守り活用する】		
204	「人類の遺産」を後世へ継承するという観点を大前提として、二条城の価値と文脈に相応しい事業・手法で活用してほしい。	B
205	二条城をイベントの会場として使うだけでなく、本来の世界遺産としての魅力をもっと大事にしてPRすることが必要だ。	B
206	二条城をいかした取組に期待する。	B
207	文化庁の全面的移転を契機に、非公開とされている庭園や社寺などを通年公開し、さらなる国内外の京都ファンを増やしてほしい。	B
208	文化財には至らないような京町家をはじめ、古民家、洋館、近代建築などの歴史的建築物について、幅広く支援を講じてほしい。	B
209	文化遺産にまつわるストーリーを活用して、産業化して発信することができたらよい。	B
210	「京都における新たな世界遺産の登録」については、「世界遺産」の登録だけでなく、「無形文化遺産」の登録についても、力を入れてほしい。	B
【景観を保全し再生する】		
211	道路補正、路上駐車を取り締まり強化、ポイ捨てを取り締まりや罰則強化。歩きたばこをやめてほしい。	C
【文化施設を充実する】		

212	京都市美術館の再整備にネーミングライツの手法を活用することは、文化の発信には有効だと思う。	B
213	美術館の再整備は賛成だ。	B
214	美術館など様々な施設の改修にあたって、京都の伝統を活かし、より魅力的な場所となるよう進めてほしい。	B
215	今検討すべきなのは、再整備後の美術館を運用していくための財源と人材についてである。常勤の正職員として、特に現代美術を専門とする学芸員の雇用を検討してほしい。	B
216	日本の美術館等は、著名な作家の作品展を開催しても、それを市民に分かりやすく伝えたり子ども向けの美術教育の啓発や教育プログラムがまだまだ充実の余地がある。普及啓発に取り組む人材(学芸員)の確保、体制の整備が大切だ。	B
217	博物館、美術館、資料館等へのリピーターを増やす工夫が必要だ。特に小中学生が手で触れたり持ち上げたりできる展示品を増やすことが有効だ。	C
218	ロームシアター京都をもっと活用してほしい。	B
219	ロームシアター京都の知名度が上がればよい。	B
220	京都市立芸術大学が移転し、まちなかに来ることによって、若手芸術家の活動がもっとまちなかで感じられるようになることを期待する。	B
221	若き芸術家を輩出するためにも京都市立芸術大学の移転整備を着実に進めてほしい。	B
222	芸術センターの在り方を見直す時期ではないか。	B
223	京都市交響楽団をもっと市民に身近に感じられるように公演企画を検討すべき。ロームシアター、京都コンサートホールをもっと活用し、京都市交響楽団のファンを増やすべき。	B
224	京都コンサートホールの様々な箇所の劣化が激しく、悪評によるマイナススパイラルの発生は大きく信用を失うことにつながるため、早急な改修を希望する。	B
225	京都コンサートホールを障がい者や高齢者にも無理なく使える施設へと改善を望む。	B
226	弦楽四重奏から10名ほどまでのアンサンブルの練習場所として、安価に借用できる練習室(40~80平方メートル)が、京都市内にはない。時間制にて使える響きのよい練習場所が必要だ。	C
227	ホールも比較的大きいホールが多く、客席が150~250席程度のクラシック専用ホールがないので充実してほしい。	C
228	中小規模のホールの不足が深刻だ。京都市の文化会館は公用での使用が多く、市民が利用できる日が減っている。京都府のホールはプロ優先予約のルールがあり、アマチュアが使う余地がほとんどない。予算的にも厳しいアマチュアの活動を維持できるよう、せめて公平な利用機会を確保できるようなルール整備をしてほしい。	C
229	京都の学生音楽は京響によって支えられている。今後、学生やあらゆる音楽家の憧れの楽団となるよう発展してほしい。	B
230	マンガミュージアムについて、週に何回かでもよいので、夜間の開設を検討してほしい。	C
231	市、府、国で持つ、文化芸術施設の意義や役割を考えたとき、3重行政となる部分を市が中心となり、状況を見極めながら、積極的に統廃合をしていく必要があると考える。	C
方向性4 様々な文化交流を推進し、京都の魅力を発信する		
【文化の力で京都から地方創生を実現する】		
232	文化庁の全面的移転は京都市民にとって嬉しいことだ。文化事業が様々な展開されていくことと思う。	B
233	文化庁を京都に迎えるに当たり、計画に基づき、文化・芸術の更なる振興に取り組んでほしい。	B
234	文化庁京都移転を、国内各地の文化が一挙に集積することと捉え、京都はそれを受け入れ、多様な文化創造の発信する”受信拠点”としてのメッセージを示すべき。	B
235	文化庁が京都に移転してくることで京都の文化が質的向上を遂げ、京都の新たな魅力となり、まちが活性化することを期待する。	B

236	文化庁の京都への移転は、京都の都市格を向上させるものであるが、市民ひとりひとりにとって、どのような影響や効果をもたらすものであるのかがわかりやすく伝わるようにしてほしい。	A
237	文化庁が来てどのような意義があるのか教えてほしい。	A
238	国の機関が移転するのに、なぜ一自治体の市民だけが余計にコストを負担するのか。文化庁が移転することで京都の文化がどのように振興されるのか。移転の意義を明らかにしてほしい。	A
239	文化庁が京都に移転され、文化首都京都としての役割はますます増え、京都市民の責任も大きくなる。	B
240	文化庁の京都移転は国全体の文化力を底上げするようなものにならないといけない。	B
241	文化庁が京都に来るメリットは、京都だけで受けてはいけけない。国益をブラッシュアップさせなければならない。	B
242	文化庁が京都へ移転することで、京都にとって、また、京都だけでない全国の文化や芸術にとってもよいものとなるよう期待する。	B
243	文化庁の移転を基軸とした新しい事業を立ち上げてほしい。	B
244	文化庁の全面的な移転に向けた取組の着実な推進には期待している。	B
245	文化庁の全面的移転は、地方創生のシンボリックな出来事であり、大きく文化の立ち位置が変化していくことになる。観光等他分野と連携して経済の活性化をしていくために施策を打つことが、全国のモデルにもなりうる。	B
246	全国の地場・伝統産業のモデルという意気込みは理解するが、少しおこがましい印象を受ける。	C
247	文化庁のサテライトの項目に、経済団体との交流もあるとよい。	A
【国内外との文化交流を促進する】		
248	京都が文化交流を深めることによって新しい発想に敏感になり、よりクリエイティブなまちにつながっていく。文化交流を積極的に進めてほしい。	B
249	海外と文化交流することは大切。文化交流によって、他国の文化を受け入れ、京都の文化はさらに進化するものと考えている。	B
250	国内外から訪れる人が増えることに乗じて、文化交流も同じように増えていくことを願う。	B
251	京都に文化芸術が集積しているからといって、京都から見下すような表現はよくない。違う文化を認め合う度量がないと、うまく文化交流はできないと思う。	B
252	方向性4に、「相手の文化を受け入れる」という観点が弱い。	B
253	国内外の交流推進に留まらず、多様な文化を受信、許容し、京都のみならず新たな文化を創造する都市としての意識を持つべき。	B
254	「東京オリンピック・パラリンピック等の開催」、「文化庁の京都への全面的移転」を契機として、この第2期文化芸術都市創生計画(案)に掲げる施策を推進することにより、京都が国際的な文化交流の中心的な存在となることを期待する。	B
255	日本の文化を点ではなく、世界を線で繋ぎ、文化芸術のムーブメントを京都から発信。多様な文化交流の出会いの場が、創造性豊かな人材を育て、文化を生むのではないかな。	B
256	国内外の多様な文化人、アーティストを京都に迎え入れ、制作活動を通じ、移り住む仕掛けを作り、その創造性を市民、民間も含めシェアする場が必要。全国各地のアーティスト・イン・レジデンス・プログラムとの連携を図ることで、多様なジャンルによる感性を京都が受信できることにつながる。	B
257	アーティスト・イン・レジデンスを、地元企業との戦略的ネットワーク資源として捉え、その地位向上につなげる(文化芸術と経済を結ぶ芸術連携が生まれ、企業がパトロンとなる仕組みに繋がる可能性もある)。	C
258	東アジア文化都市について、広報に力を入れることは大変重要だと思う。この文化イベントを契機として、異文化交流が京都市民の間で一層広がることを望む。	B
259	2020年の東京オリンピックの後に、人材や文化資源が育ち、引き継がれるような仕組みづくりに努めてほしい。	B
260	東京オリンピックは日本が世界中から注目される好機であり、東京のみならず、関西、とりわけ京都の存在が広く世界に発信されるよい機会であってほしい。	B

261	スポーツも広く考えれば文化であり、「スポーツと文化芸術の融合」ようなことができればよいのではないか。例えば、プロスポーツの試合など、多くの人が集まる場で、試合の前座で文化芸術のイベントを行ってみてはどうか。	B
262	大政奉還150周年記念プロジェクトはあつい。もっとアピールを。おもしろそうだ。	B
263	留学生が文化が理解できる授業、講座があるとよい。	B
264	留学生が京都の文化の魅力に感動し、自国においてその魅力を広げることが大切だと思う。多言語発信、多言語解説を望む。	B
265	パートナー都市との文化を軸とした交流を推進すべき。	B
【京都の文化芸術を伝える・魅せる】		
266	日本が世界から注目されているこの機会を逃すことなく、京都の文化を世界中に発信していくことが重要だ。	B
267	「京都の文化芸術を伝える・魅せる」について、情報発信のツールがfacebookやTwitterに偏っている。民間企業では、instagramやLINE等での情報発信を実施しているところもあり、SNSについても戦略的に活用すべきである。	B
268	社会や経済の新たなあり方を求めて、日本文化に対する関心が広がってきている。文化、芸術に対する見方の違い、現代と伝統がうまく融合した文化や都市のあり様を、京都から発信すべき。	B
269	京都が誇る「ほんもの」の伝統芸能や文化を幅広い世代や外国人が気軽に体験できる場や機会を提供することで、京都がより親しみやすく、魅力的な文化観光都市として国内外に発信できるのではないか。	B
270	幅広い分野であるからこそ、個々の事業は焦点を絞られるが、そうすると、一定のコアな専門家等を満足させるだけの、なんとなく広められたという自己満足に終わらないようにしてほしい。	B
271	京都市では数多くの京都の文化を知る事ができる機会を設けていて素敵だが、体験できることを知っている人は少ない。広報活動に今以上に力を入れたらよい。	B
272	京都で開催される様々なイベントが、いつ・どこで・何が行われるのか、情報発信の環境整備に取り組んでほしい。	B
273	京都には寺社仏閣が多く文化財がたくさんあるのに、どれが何でどこにあってどんな歴史なのかがあまり知られていないのが残念だと思う。	B
274	京都を訪れる人のために受け入れ体制、インフラ整備の問題など改善すべき点があると思う。外国語表記をきめ細やかにする等、京都を訪れる人が京都の文化を理解しやすくするような、環境整備が大切である。	B
275	文化芸術に関する取組全般において、留学生、外国からの観光客が増加する中、英語、中国語での併記が不可欠だ。	B
276	移住者や観光客も文化に親しむことができる仕掛けを作してほしい。	B
277	海外の観光客が増えている要因として、京都市の有する観光資源や文化芸術の魅力により惹きつけられているものだ。	B
278	世界に名だたる有名な日本料理店が行っている日本文化の発信について、改めて評価し直し、市としても活かしてほしい。	B
279	マンガミュージアム、みやこめっせの京まふイベントなどをもっと海外にアピールしていくべきだ。	B
280	海外観光客も多いため、様々な層を取り込むべき。アニメが好きという人をより多く取り込むため、聖地巡礼マップのようなものを作ればよい。日本人でもアニメが好き人は多くいるので日本語と英語のマップを作成したらよい。	B
281	方向性4がよいと思う。伝統産業を国内外に発信すべきである。	B
282	京都市職員も、文化芸術の受信能力を高める必要がある。	B
283	職員の文化力を高めるためには、受信する力を持つ必要がある。	B
284	京都市職員1人1人が「文化」を身近なものとして捉えられ、文化力を高められる取組の実施を期待する。	B
285	地域活動や社会活動に加え、文化芸術活動への参加や、文化芸術活動の運営に携わることに社会的価値を認め、そのような活動に参画することを奨励する必要がある。まずは市の職員から積極的に、文化芸術活動に取り組みやすい環境作りをしてはどうか。	B

4 推進方法		
286	文化に関わる各々の役割(市民, 芸術家, 京都市等)から何をすべきかを計画案に入れているのがよいと思う。	B
287	「市民の役割」の推進方法について, もう少し具体的に今年度はどう推進していくのかが気掛りな所がある。これは「市民しんぶん」等の府市公報及び企業の広報によって常にあまねく周知する事が必要である。	B
288	京都の文化芸術都市としての創生のためには, 行政だけでなく, 民間の力によるところが大きいのではないかな。	B
289	企業は設備投資だけでなく, 人に対する投資, 文化に対する投資をしていくことが求められる。	B
290	企業, 会社の壁などに芸術作品を展示することで, 会社が明るくなる。企業に芸術作品を展示することを促してはどうか。	B
291	一流企業にもっと文化芸術への理解が促進されると, 美術コレクションの動きも変わるのではないかな。	B
292	企業のメセナ意識を高めるための施策が大切である。	B
293	文化芸術に対し, 企業はメセナ, CSR的発想を超えた考え方を持つべき。	B
294	民間が所有する優れた文化芸術資源を活用した個別具体的な施策を盛り込んだ方が, 行政だけでなく, 民間も含めオール京都で推進する方向性が明らかになると思う。	C
295	今後, 関西広域連合第3期広域計画が関西広域連合議会で審議されることとなっているため, 次期創生計画についてもその率先牽引を担うべく表現するべきではないかと考える。	C
296	京都府や近隣自治体との文化芸術施設, 文化芸術事業との共催, 協力を積極的に京都市が推進してことで, 関西, 日本へ発信していくことができるのではないかな。とりわけ, 近隣自治体と隣接している区の文化芸術の取組が重要になってくるのではないかな。	C
297	「京都」を市で活かすのではなく, 府で活かしていくことで少しは解消していき, 京都全体の活性化に繋がると考えている。	B
298	取組の評価・点検等について, タイムスケジュール的な内容が記載されれば, 更に充実したものになる。	C
299	時宜にかなった本当に実効性のある施策を柔軟に実施できるような計画にしてほしい。	B
300	文化事業, 文化政策によって期待する効果を想定し, その結果に対して妥当な予算配分や体制整備等の投資ができたかを検証する仕組みを考えることが必要ではないかな。	C
301	政策の到達点を数値化する必要があるのではないかな。文化を基軸に様々な政策分野と融合するのであれば, 経済効果を目標の一つにしてはどうか。例えば, 市民総生産や外国人観光客数などを掲げてはどうか。	C
5 総論		
302	文化芸術を活用, 創造, さらに発展させるには単に「見る」だけではない奥深さを浸透させ, 理解・感じさせることが必要であり, 当計画からもその趣旨が伺える。	B
303	京都には伝統文化だけでなく, 現代アート, 舞台芸術, 音楽, 工芸など幅広いジャンルの文化があり, どの事業から着手するのか, 優先順位を決めて, 目指す京都の姿, 目標が達成できるように取り組んでほしい。	B
304	ほんものの文化を維持・継承した結果として, 世界中からその文化を見に来るようになって観光客が増え, 都市格が向上し, 経済にも好影響を与えることで, 市民の収入を増やすことが文化に求められている。	B
305	文化を基軸として, 観光・経済をはじめ, あらゆる政策分野に波及・融合させることで, 文化政策に広がりや深みを持たせるということを目指す, その姿勢がよい。	B
306	文化政策については, 文化振興などのセクションが単独で取り組むだけではなく, 行政部局内を横断した総合的な政策としてとらえる必要がある。	B
307	オリンピック, パラリンピックの開催, 文化庁の移転方針決定等を契機として「京都の文化力が日本をけん引できるような」計画となるよう期待する。	B
308	京都市の文化に対する取組及び今後の展望について分かりやすく示されている。	B
309	文化芸術都市・京都が世界的に認められ, 日本を代表する観光都市となっていることは, 京都市の文化行政の一つの成果であり誇るべきことだ。	B
310	この計画により, 文化芸術を基軸として京都市が活性化することを期待する。	B

311	「心の豊かさ」の向上のためには、文化への投資が必要だ。	B
312	計画策定の必要性は理解できたが、幅広い方の理解を得るためには内容が難しい。	C
313	京都の現状、課題がよく分析されており、それを踏まえた計画になっている点が良い。	B
314	様々な分野の事業があり、どのような目標をもって取り組もうとしているのかが分かりにくい。	C
315	計画内容が抽象的になり、具体的な取組が不十分に終わってしまわないように進めてほしい。	C
316	近代国家の幕開けとなった大政奉還から150年の節目の年に、新たな文化政策を策定することの意義を市民が共有することが重要だ。	B
317	文化芸術都市・京都としての成果を継続し都市の持続的な発展につなげることと、その成果を市民に還元することが重要である。	B
318	東京オリンピック・パラリンピック等の開催や文化庁の京都移転の決定を契機とした京都文化の発信、文化とあらゆる政策分野を融合した施策・事業の推進は、非常に素晴らしいことだ。京都が文化で日本を元気にする。是非、実現してほしい。	B
319	このような計画を策定することは意義深い。文化庁におけるこれまでの補助金事業とは一線を画した、日本の文化振興・普及に資する魅力的な事業を展開してほしい。	B
320	合理化、効率化により失われつつある「文化」にスポットを当て、こうした計画という形に落とし込み、絶えることなく施策を推進していくことは、文化庁誘致が決定するなど日本を代表する都市である京都に与えられた責務を果たすための「決意表明」である。文化芸術都市の創生に尽力してほしい。	B
321	施策一覧に書かれた事業の量が多岐に渡る。集中的に取り組むべき事業を精査した方がよい。	C
322	施策一覧に非常に多くの事業があげられとても期待できる内容である。	B
323	文化庁の京都移転を機に、更なる文化振興に取り組んでほしい。	B
324	文化庁の移転を機に、益々、文化を盛り上げてほしい。	B
325	文化庁の移転等で京都市に注目が集まっていると思うので、よりよい計画を策定してほしい。	B
326	文化庁が京都に全面的に移転してくることで、京都の文化度も向上させていかなければならない。京都でしかできない成功事例をどんどん作ってほしい。	B
327	文化庁移転が京都に決まったら、「京都の文化」には追い風が吹いている。私たち市民がふとしたときに感じられる「京都の文化」をこれからも守ってほしい。	B
328	市民目線で実施することが重要。	B
329	一過性のイベントは、集客力はあるが、継続的な効果が薄いのではないかな。	C
330	ハード面の整備は進んでいると思うので、ソフト面の充実や市民の文化に対する機運醸成が重要になってくる。	B
331	当計画の目的が実現されるよう、個々の事業の展開においては情報発信の工夫が必要だ。	B
332	現在検討されている新税を活用して、京都の文化力を更に高める取組を進めてほしい。	C
333	事業名を含めてもう少し身近に感じられ、参加しやすいものにしてほしい。	C
334	伝統芸能や、マンガやアニメなど、すべてが文化であるとすれば、守備範囲が広すぎるのではないかな。	C
335	文化の意味が漠然としていて難しい。	C
336	「芸術家」、「クリエイター」ということばが用いられているが、同義ではないかな。	B
337	「京都文化芸術プログラム2020+」は素晴らしい。	B

6 その他

338	施策について具体的な記述がなく、意見の言いようがない部分がある。パブリックコメントの際には、もう少し詳細を明らかにしてほしい。	C
339	京都にまず来てもらうことが大切だと思うので、中学高校生を対象に修学旅行で”京都を学ぼう”プランがあればよい。京都に住んでいない人が、京都の体験を早い段階でできたら将来の夢の幅も広くなり、刺激となり、新たな発展につながる。	B
340	もう少し文化施設の周辺に看板や案内があった方がもっと多くの人の興味を引けると思う。住んでいる人にも、観光客にも、海外からのお客様にも。親切なわかりやすい案内があればよい。	B
341	英語標記の案内と和風のしつらえ(市松模様)に英語表記)などがうまく共存できるまちになったらよい。	B